

○ 学校教育自己診断アンケート分析結果について

- コロナ禍という中でも、授業に対する保護者の評価が上がってきているのは、先生方の自己評価にもあるように、先生方の授業の工夫がある一定の評価を得ているものと思われます。今後はこれまでとは少し違ったデジタルを使用したハイブリッド型の授業形態も念頭に置かれることも必要かと思われます。
- 生徒の8割以上が、学校に行くのが楽しいと回答していることや先生の指導を肯定的にとらえていること、保護者の学校への信頼度が高いことなどは、新しい教育課程や端末の導入などで、先生方の情報共有が増え、しっかり話し合わせ、同じ方向で取り組んでいこうという取組の成果が表れているのでは？と感じました。
学校運営もチーム力だと感じます。
- 【生徒】全体的に改善傾向にあり、特に「学校に行くのが楽しい」の項目では、肯定的な回答が高い水準である。しかし、「授業以外での学習時間」に関しては、家庭学習の定着が今後の課題ではないかと思う。
- 【保護者】全体的には学校の教育活動にご理解を得ているようであり、ほとんどの項目で高い水準である。しかし、「授業」に関する項目では、学習内容が難しくなるとはいえ、少し物足りなさを感じる。
- 【教員】授業づくりをはじめ、様々な取り組みに対して工夫されていることが伺える。しかし、質問番号1「生徒は楽しそうに学校に来ている」と14「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」では、生徒の回答1「学校に行くのが楽しい」5「担任の先生以外にも気軽に相談することができる先生がいる」と比べ、少し乖離しているところが気掛かりである。

		よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
教員	生徒は学校に楽しそうに 来ている	34%	63%	3%	0%
生徒	学校に行くのが楽しい	33%	48%	15%	4%

		よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
教員	教育相談体制が整備され ており、生徒は学級担任 以外の教職員とも相談す ることができる	25%	61%	11%	3%
生徒	担任の先生以外にも気軽 に相談することができる 先生がいる	32%	36%	22%	10%

- コロナ禍の中、普段以上に先生方の労力・ストレスが多かったのではないかと思います。先生方のご尽力によってよりよい教育が行われているなと思えました。そうした中ですが、例年課題にあがる生徒自身の学校外の自主学習時間の少なさと地域交流の相対的な低さが気になりました。以前、生徒の交通指導で、自分たちがルールを守らないことが地域の人たちにとってどのように迷惑がかかるのかについて生徒に考えさせることを行ったかと思いますが、自発的に考えさせる課題を各教科工夫すれば、自主学習時間も増加するのではないかと思います。
- 授業外学習をはじめとする学習習慣の確立は、将来への明らかなビジョン「夢」があってこそ実現できるものである。キャリア教育という特定の場面だけではなく、教科・科目やHR活動等の全ての学校教育活動において生徒の「夢」を育むことができる教育的アプローチが求められる。
授業に対する満足度や、授業へのコミットメント等は、単にわかりやすいという観点から、自分自身の「夢」の実現をどの程度可能にしているのか、また、努力しているのかという視点で評価することが求められる。

[事務局より]

令和3年度は一人1台端末が導入され、日々の健康観察、授業連絡・課題の指示/配信、授業の振り返り、探究レポート等の活用シーンがありました。引き続き、コロナウィルス感染防止のための自宅待機生徒への学びの保障など、新たな課題もある一方で、日々の学習時間の確保にむけて、日頃の授業教材、授業動画等をライブラリー化し、活用させるソフト面の整備とともに、マインド、進路実現にむけて早い段階から目標意識を持たせ、取り組ませるなど、家庭学習時間の定着については引きつづき、課題となっている。

また、生徒意識と教員の意識の乖離について、引き続き、教職員の生徒支援の意識を高めるための研修等により、誰一人取り残さない教育の実践に努めていきたい。

○ 令和3年度学校経営計画および学校評価について

・【学力向上と進路実現】

ICT機器をどのように授業づくりや家庭学習と関連づけられるかがポイントであり、常に進化していかなければならない。また、コロナ禍におけるオンライン授業等、対面での授業をただ単に流すだけでいいのかなど、今後の検討が必要である。進路指導に関しては、計画的に実施されており、入試結果へとつながっているものと思われる。生徒たちの自己実現の為、これからも引き続き指導をお願いしたい。

【豊かな人間性の涵養】

部活動をはじめ、体育祭や文化祭など、コロナ禍による色々な制限がある中で、苦労されたと思う。

遅刻者数に関しては、引き続き指導をお願いしたい。また、仕方のない遅刻なのか、そうでないものなのか、できれば遅刻の理由も知りたい。

【活力ある学校づくり】

高校卒業後を見据え、特に英語教育に力を入れていることが伺える。英語力を身につけることで、社会に出たときに必ず役立つと思うので、習熟度別指導など、今後も工夫ある授業展開をお願いしたい。

- ・地域との交流について、経営計画では「地域の奉仕活動及び交流活動（地域清掃、SGS（スクール・ガード・ヘルパー）、中学生との部活動交流、地域活動への出場等）により、社会に貢献する力を育む」と生徒が地域に出て活動するということが書かれていますが、地域の人たちに学校に来ていただいて何かを教えていただく等のことはできないでしょうか。学校運営協議会制度（コミュニティスクール）自体、地域の人たちに学校経営に参画していただき、地域が学校・生徒のために何かできるかを考える場でもあると思います。現状では地域で何かできるのか、地域にはどのような人材がいるのか、よくわからない状況があります。できれば文部科学省がコミュニティスクールで述べている熟議（ワークショップ）を開催してみたいかでしょうか。

参考までに文部科学省の関連サイトをあげておきます。

地域のみんなで子供たちの未来を考えるワークショップのすすめ

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/community/school/detail/1366266.htm

- ・コロナ禍で協同的活動を通じた人間性の育みが取り組みにくかった中、工夫され何とか取り組んでいこうという姿勢は、生徒たちにとって、とても大切なことだと感じます。
- ・「さつき『授業力向上』プロジェクト」が生徒・保護者、教職員に周知され、学校教育の質や学校経営の評価規準の一つとなっていることは、評価できる。
また、パンデミック下で、オンラインによる国際交流プログラムが継続的に実現できていることは素晴らしいことである。

[事務局より]

令和3年度学校経営計画および学校評価について、概ね良い評価をいただいたと認識させていただきました。

引き続き、オンラインの活用、観点別学習評価を取り入れた授業改善（授業力向上）、行事等の協同的活動を通じた社会性等を育む教育活動を継続できるよう努めていきます。

地域との交流について、学校経営計画には記載できておりませんが、寝屋川ドライビングスクールの職員をお招きし、交通安全指導、教員を対象とした心肺蘇生法等の安全講習等を実施し、また、今年度は年度当初に金融教育実践研究指定校にも指定され、2年間の研究を始めております。ご指摘の通り、本校のプログラムの中での交流に留まっている状況ですが、引き続き、地域人材を活用した教育活動についても模索してまいります。

○ 令和4年度学校経営計画について

・計画がこれまでよりも詳細かつ具体的に挙げられており、計画に基づいて実行されていくのではとの期待が寄せられます。常にアップデートされていく姿勢が感じられる計画であると思います。

・【学力向上と進路実現】

R3年度と同様、引き続き指導いただき、R5年度の目標数値に近づくよう期待している。また、成人年齢が18歳に引き下げられることから、より一層の責任ある行動が求められる。このことから、大人に向けての基礎づくりを担う中学校、高等学校の責任も重要である。

【豊かな人間性の涵養】

協調性や課題解決力、コミュニケーション力など、現代社会において求められる能力は多岐にわたる。そうした力を身につけるためには、学生時代の経験が大きい。授業規律や遅刻をなくすことはもちろん、行事や部活動等で学ぶものも多い。ぜひ、在学中の3年間で、生徒たちの倫理観や社会性を磨き、立派に独り立ちできる資質を備えるようお願いしたい。

【活力ある学校づくり】

英語に特化した取り組みや、生徒を交えた学校パンフレット作成など、これからも引き続き取り組んでみたい。

働き方改革とは相反する部分もあろうかと思うが、「部活動の活性化」において、入学してきた生徒や、入学前（中学校生）の生徒が、魅力を感じる部活づくりが重要だと思う。大会で実績を出すことも大切ではあるが、地域の方々やアルバイト先、将来就職するであろう企業から、「皐が丘の〇〇部出身だったら間違いなさそう」と言われるような人材づくりが部活には求められている。各競技の技術的なことだけでなく、規律面やリーダーシップ、チームワークなど、社会に出てから有利にはたらく力を養うことが重要だと思う。また、在校生や卒業生が、「〇〇部に入ってよかった」と思わせることも大切であり、部活動の活性化につながるのではないだろうかと思う。

・生徒端末のさらなる活用に期待します。個別の学力向上や進路実現もさることながら、命の大切さを学ぶ機会をぜひとも大事にしていきたいと思います。現実にはヤングケアラーが存在すると感じています。生徒の状況の把握は大切だと感じます。

・ICT 機器やフォーム等のアプリを利用した生徒との情報共有や即時フィードバック等が、生徒の自己管理学習を有意に促すことが期待される。また、1年生から3年生までのLP（総合的な探究の時間）の系統的な展開・実施により、各教科・科目学習の基盤となる就学の意義や目的意識を形成することが期待される。

新学習指導要領の年次導入に伴う、観点別評価の在り方等に関する校内研修等の実施が望まれる。

[事務局より]

令和4年度学校経営計画について、ご承認いただいたと認識させていただきます。

成人年齢が18歳に引き下げられることから、より一層の責任ある行動が求められる。在学中に成人を迎える高校生に対して、大人に向けての基礎づくりをしっかりと担ってまいります。

そのためには、生徒の育成すべき資質について、教科連携を深め、3年間を見通した教科横断的な教育計画のもと、LP（総合的な探究の時間）の系統的な計画、展開の実施を進めます。

また、令和3年度の学校経営計画評価において、ご指摘された地域連携についても、従前の取組への参加者拡大、既存の取組に外部講師を招くなど、より地域と連携した実践ができるよう検討してまいります。

あわせて、新カリキュラムの実施にあたり、観点別学習評価を含め、一人一台端末を活用した授業実践について、教員研修等により、新たな活用法の模索、定着を図ってまいります。

尚、ヤングケアラー等の生徒の実態把握について、令和3年度学校経営計画評価において、担任以外の教員への相談体制について、教員の意識と生徒意識の乖離についての指摘がありました。引き続き生徒相談委員会等での情報共有、個別の支援計画の策定など、個に応じた支援について実践するとともに、校内研修等により、教員のマインド育成に努めてまいります。

○ その他

- 入試制度について、現在高校で使用されている資料を提示いただき、非常に参考になりました。その中で第2回協議会でもお話ししました「総合型選抜」入試についてですが、希望する生徒に指導してほしいのが、「どういう経験をしたのかと同時にそれらの経験から学んだことを一貫したストーリーで語ることが求められている」ことです。これまで複数年総合型選抜入試を担当した実感として述べますと、唯一特異な経験を持っている生徒はとても少ないです。むしろ、平凡な経験でもそれによって何を学び、それはどのように大学で発展させるのかのストーリーを自己PRや面接で語ることができるのかがより重要です。ストーリーの創造力はリポート・論文作成でも、就職活動でも非常に重要になってきます。ぜひともそのような指導も高校のうちから行っていただければと思います。
- コロナ禍で、イレギュラーなことが日々起こる中、本当にご苦労様です。地域の子もたちのあこがれの高校生でいてもらえることを期待しております。早く交流できるといいですね。
- 進路説明会の資料はとても分かりやすく、進学を希望している学生にとってはとても良い機会になっているように思います。このような説明会に参加することで、おぼろげながらに抱いていた大学進学がより現実味を帯びた具体的なものになり、また目標の設定に有効であると感じます。とても丁寧な指導をされているなと感じます。